

# 人権が大事にされる学校づくり ～だれひとり取り残さない学力・進路保障～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働活動
伊賀市立 柘植中学校	柘植中学校学校運営協議会 令和3年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 1名 0名	柘植中学校 地域学校協働活動



## 取組の背景及び目標や目指す姿

### 背景

本中学校区の子どもたちは、ひとり親家庭や経済的な支援を必要とする家庭、家族に特別な支援を必要とする人がいる家庭等、さまざまな暮らしの中で育っている。このような教育的に不利な環境のもとにある子どもたちに顕著にみられるのが、低学力傾向に加え、新しい人間関係をつくることに時間がかかってしまうことである。一保一小一中の環境で過ごすことで、ごちんまりとした関係に安心してしまい、自ら人とつながっていくことを苦手とする生徒が多くみられ学力面とともに課題となっている。

### 目標や目指す姿(学校)

地域の大人との交流やさまざまな体験活動を通して自らの未来を切り拓き創っていく力をつけるための取組を進める

### 目標や目指す姿(地域)

子どもたちを中心とした活動に主体的に参画し、「柘植の未来をともに考える」地域づくりをめざす



## 柘植中学校学校運営協議会

## の特徴

### 委員の立場や属性等

- 保護者・PTA関係者
- 自治会関係者
- 校区内保育園関係者
- NPO法人地域未来塾関係者
- 学校教育ボランティア
- 有識者
- など、計 **8** 名で構成
- 年間平均 **3** 回程度開催

### 効果的な運営の工夫

- ・さまざまな年齢層の委員から意見を聞けるように、20代から70代の年齢構成にしている。
- ・学校運営協議会としては、年3回程度の開催だが、つげっこネットワーク委員会を年間6回程度行うことで、学校や地域の課題共有を随時行っている。また、学校運営協議会を行う前には、事前に文書便で校長から議題となることを各委員に送り、スムーズに会議が進行できるようにしている。
- ・コロナ禍で会議については、日程調整が余儀なくされたが、日頃から連絡を密に行うことで、対面での会議を進行できるよう工夫している。



## 特徴的な取組と成果・効果

### 学校運営協議会

上記の課題についてキャリア教育の充実と、体験や経験が重要であると確認した。そこで、校外の人たちとの出会いや交流の場を多く持ち、自分の意見を発信することで、認められる経験が自尊感情の向上及び、学習面での意欲につながると考えた。さらに低学力の克服に向け地域の力を借りていこうと話し合った。



学校運営協議会の様子

### 地域学校協働活動

学校運営協議会での議論に基づき、教育的に不利な環境のもとにある子どもたちの低学力傾向の課題克服にむけ、NPO法人いが未来創造塾が、学習習慣の定着や進路相談に応じた「中3強化学習会」を実施。また、小・中・地域が参加する「つげTheフォーラム」を開催。



中3強化学習会の様子

### 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

学校運営協議会での熟議を通じて、以前から関わっていた「学校教育ボランティア」をはじめとする住民自治協議会と保小中の子どもたちのサポートを行う「いが未来創造塾」(事務局長が地域コーディネーター)とを連携させた取組がはじまり、学習支援や進路相談などのサポートがより強化された。さらに、子どもたちが発信する場をつくるため「つげっこネットワーク委員会」を立ち上げ、学校に関わる全ての代表が情報を共有し合い、学校や地域の課題を協議する場を設けたことが、「つげTheフォーラム」の継続につながっている。

## 取組

## 成果・効果

【中3強化学習会】 地域の青年や、普段学校で接している教師以外の人と学習を進めることで、緊張感を持ち学習を進めることが出来ている。また、講師さんたちの熱心な姿に本人も保護者も「甘えてられない」という気持ちが強くなり、学習意欲につながっている。また学習会では、高校入試に向けた面接指導や進路相談なども行っており、高校入試や進路に不安を抱える子どもたちへの支援に役立っている。さらに、学習会で見えてきた課題を学校運営協議会で共有し、課題解決に向け検討している。

【つげTheフォーラム】 特別活動の時間を有効に活用して、小学校5・6年生と中学校全学年、地域の大人がグループに分かれ「身近な人権問題を地域とともに考える」ことをテーマに話し合う場としている。全てのグループに小学生から大人まで、1名以上入るよう工夫し、進行やテーマ設定は中学生が行っている。この経験を積むことで、中学生は達成感を感じるとともに地域住民に大切にされ、応援される存在であることを知り、自尊感情を高めることができた。学校全体としての自尊感情の検証は、令和2年度と令和3年度を比較すると、70.6%→80.4%となり、10%近く向上した。とりわけ、教育的に不利な環境のもとにある子どもの自尊感情は、50%→75%となり、25%の向上となった。フォーラムを終えた中学生からは、「大人の人の意見を聞いて、新しい発見や自分にはなかった考えを知ることができた。グループリーダーをしてとても緊張したけれど、このことを通して少し自分が成長できたと思う。この経験をこれからの生活に生かしていきたい。」という感想があり、小学生からも「意見を言う」と、中学生の子たちが反応してくれたりフォローしてくれたので、楽しく話せた。」などの感想があった。また、フォーラムに参加した大人からも、「子どもたちが自分の意見を持っていることに感心した。」「今後も地域ぐるみで活動していきたいと思う。」などの感想が多く聞かれた。